

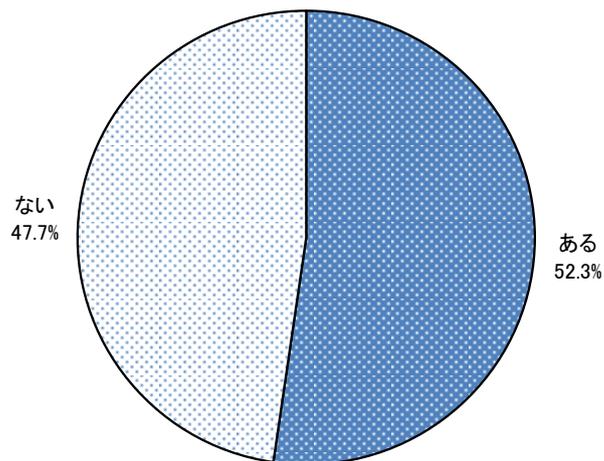
## 2. 二次調査

### (1) 関係施設調査 (調査票B)

問1 貴施設として若年性認知症に関する相談・連携先はありますか。

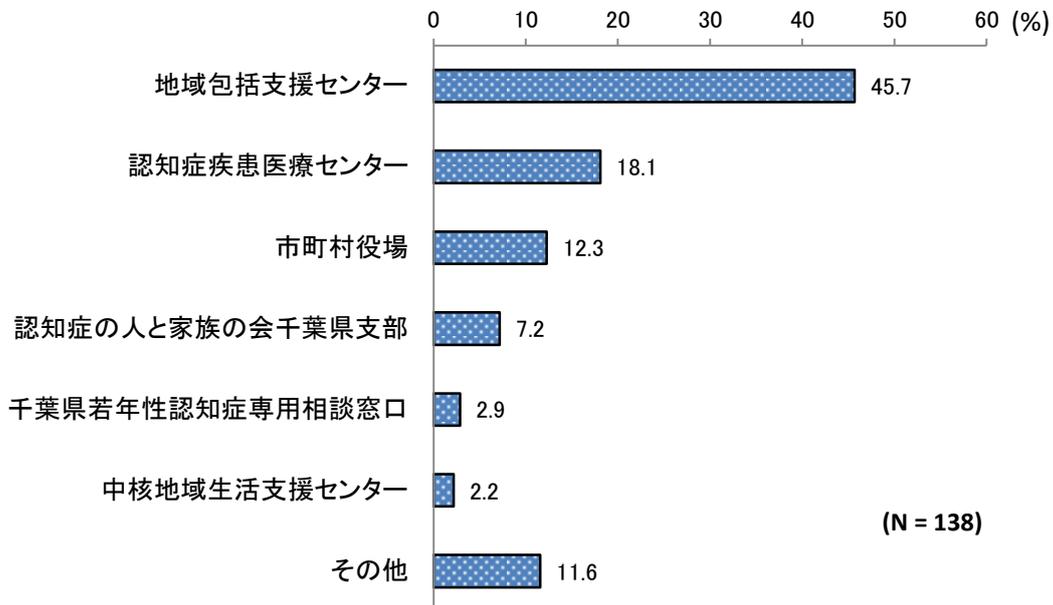
「ある」は 52.3%、「ない」は 47.7%であった。

(N = 153)



問2 問1で「1. ある」と回答された場合、具体的な相談・連携先はどこですか。

「地域包括支援センター」が45.7%と最も高く、次いで「認知症疾患医療センター」が18.1%、「市町村役場」が12.3%となっている。



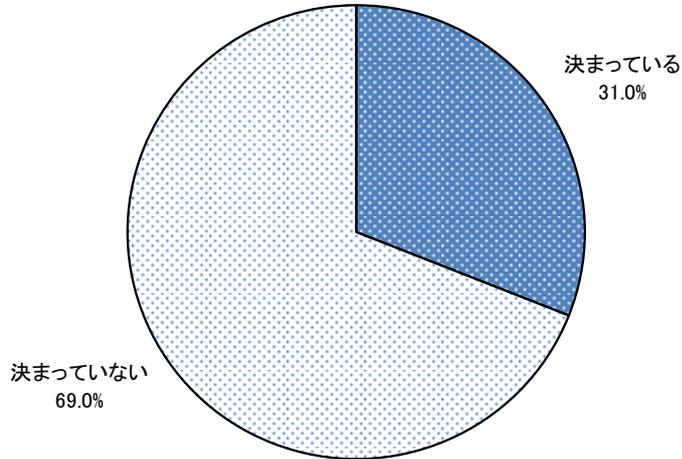
#### その他

- ・訪問看護ステーション
- ・ケアマネージャー
- ・NPOの認知症カフェ、個人的なネットワーク
- ・地域の病院（精神科・心療内科・神経内科）
- ・協力病院（精神科）
- ・同系列の病院の医師
- ・同法人内、認知症外来
- ・当法人内の病院
- ・相談内容に応じて対応先と相談
- ・精神科、心療内科のクリニック
- ・社会福祉協議会
- ・認知症対応型デイサービス・精神科
- ・保健所
- ・居宅介護支援事業所など
- ・生活相談サポートセンター（生活困窮者自立支援法相談事業所）
- ・市の認知症対策協議会

問3 貴施設で若年性認知症の方の相談窓口は決まっていますか。

「決まっている」は 31.0%、「決まっていない」は 69.0%であった。

(N = 145)



決まっている場合の具体的な窓口

- ・管理者 (7 件)
- ・管理者、管理者代理
- ・管理者 (ケアマネ兼務)
- ・認知症疾患医療センター (4 件)
- ・生活相談員 (2 件)
- ・地域包括 (2 件)
- ・千葉市内各区の担当・あんしんケアセンター
- ・支援相談員 (2 件)
- ・生活相談員・介護支援専門員
- ・相談員
- ・ケアマネジャー (2 件)
- ・施設ケアマネ
- ・ホーム長
- ・認知症コーディネーター
- ・認知症支援推進員
- ・院長 (医師)
- ・三職種で対応
- ・医事課、福祉科
- ・往診病院・精神病院
- ・往診医
- ・市町村
- ・地域医療連携室
- ・地域生活支援センター。生活面の相談。総合病院神経内科など詳しい検査等希望された場合。
- ・当院の居宅介護支援事業所
- ・総合相談サービスセンター医療福祉係
- ・当事業所
- ・外来受付
- ・精神科担当 SW
- ・医療福祉相談室
- ・認知症外来

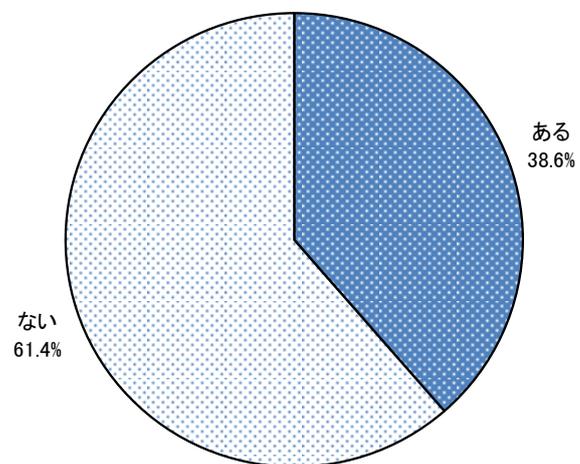
## 決まっていない場合どこで対応しているか

- ・生活相談員（4件）
- ・相談員（2件）
- ・かかりつけ医（2件）
- ・ケアマネジャー（2件）
- ・障害者就業・生活支援センター（2件）
- ・地域包括支援センター（2件）
- ・管理者
- ・管理者、計画作成担当者
- ・施設内
- ・各医師
- ・医師・相談員・看護師
- ・主治医
- ・施設の看護師
- ・各担当ケアマネが認知症疾患医療センターにつないでいる
- ・①なんでも相談センター窓口 ②物忘れ外来
- ・近隣の医療機関
- ・主に精神科外来
- ・全員で対応
- ・問題が出た時。主治医。
- ・医療相談員 MSW
- ・居宅・病院（脳神経外科）
- ・作業療法士
- ・認知症疾患医療センターor 地域包括支援センター。状況に応じて。
- ・医療機関
- ・支援相談員
- ・特に決まっておらず場合による
- ・その方のかかりつけ病院
- ・それぞれの担当が行う
- ・随時管理者と相談しながら対応
- ・各ケアマネによる
- ・各部署。主に併設の居宅介護事業所。
- ・地域包括支援センター、ケアマネジャーなど。通所事業所なので、ケアマネより先に動くことはほぼないです。困り事は皆さんケアマネさんに相談されています。
- ・経験値の高い職員
- ・地域ごとに対応
- ・生活相談員、施設長等
- ・生活相談員か看護職員が対応
- ・外来看護師か精神保健福祉士

問4 本人・家族等から若年性認知症に関する相談を受けたことがありますか。

「ある」は 38.6%、「ない」は 61.4%であった。

(N = 153)

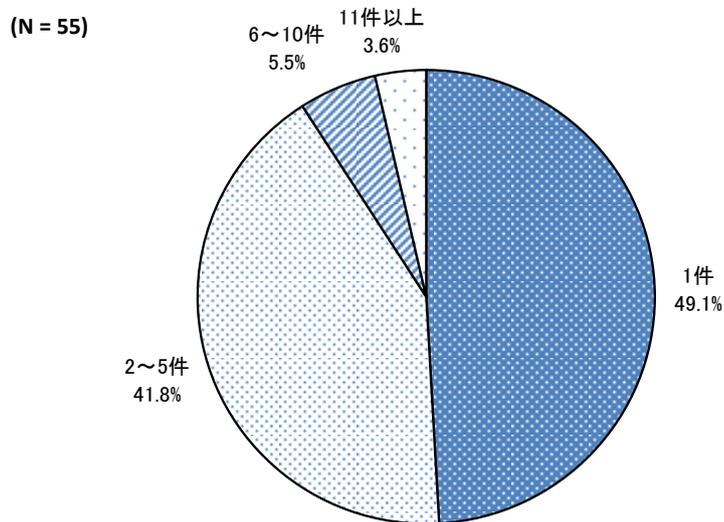


問5 問4で「1. ある」と回答された場合、相談を受けた内容等について記入してください。

※以下の設問は問4で、「1. ある」と回答した 59 施設が対象である。

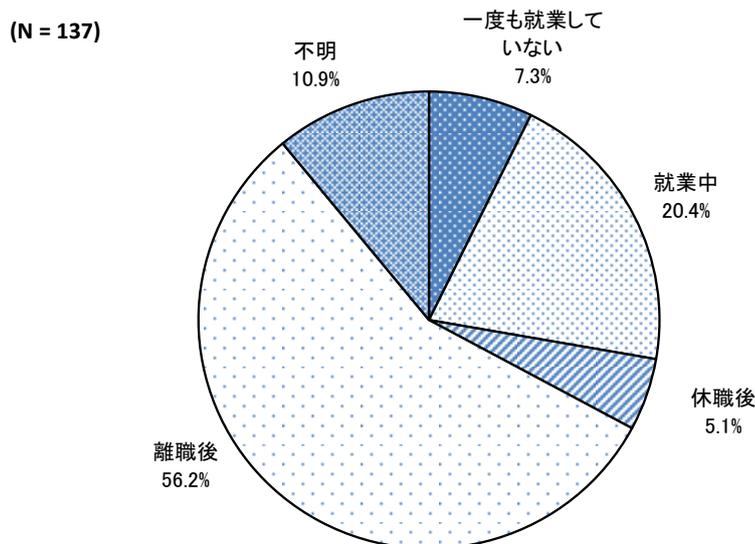
①相談件数

「1 件」が 49.1%と最も高く、次いで「2～5 件」が 41.8%、「6～10 件」が 5.5%となっている。



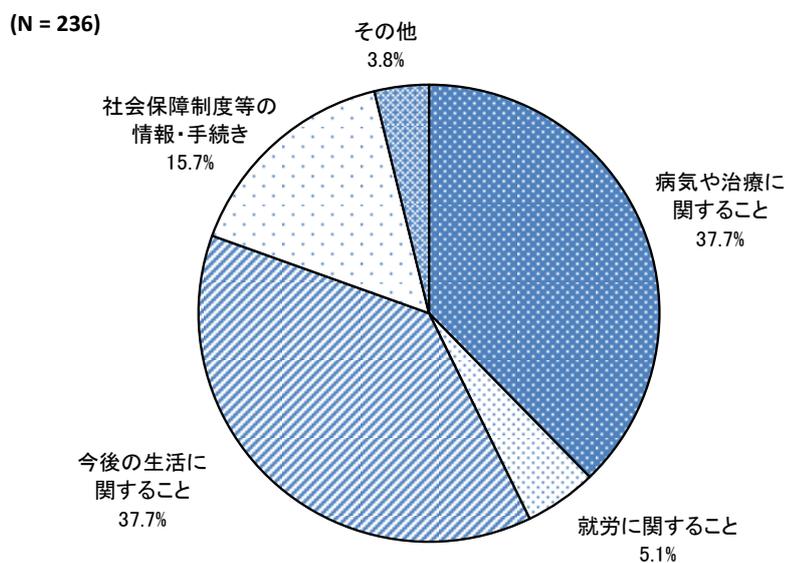
②相談時の就業状況

「離職後」が 56.2%と最も高く、次いで「就業者」が 20.4%、「不明」が 10.9%となっている。



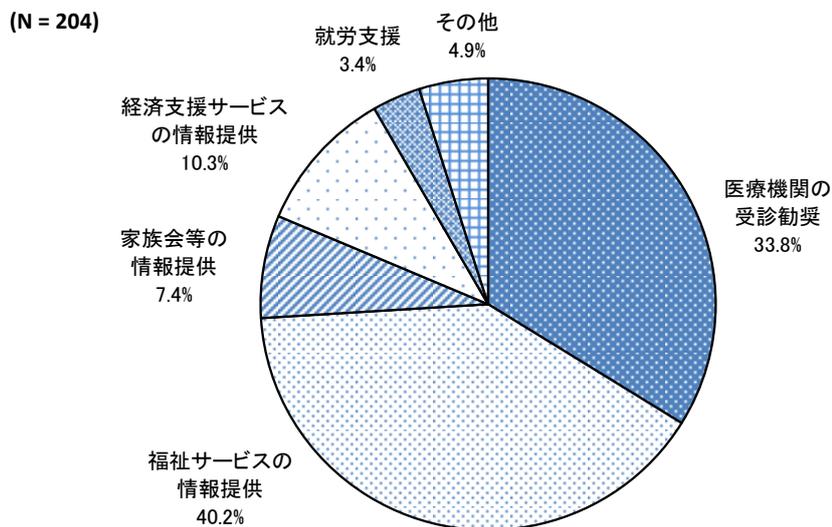
### ③相談内容

「病気や治療に関すること」及び「今後の生活に関すること」がともに 37.7%で最も高く、次いで「社会保障制度等の情報・手続き」が 15.7%となっている。



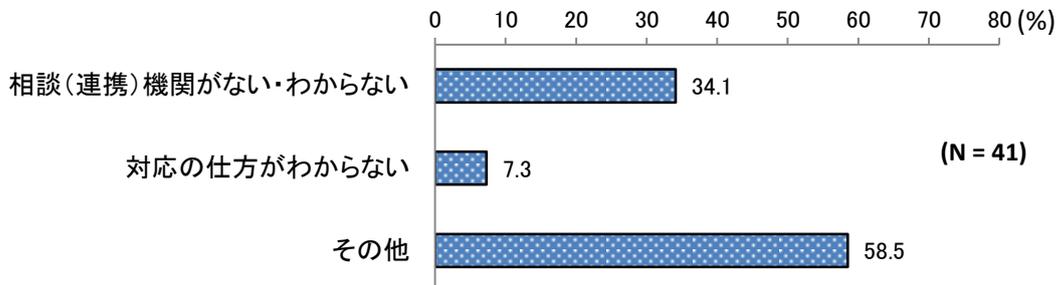
### ④相談後の支援

「福祉サービスの情報提供」が 40.2%と最も高く、次いで「医療機関の受診勧奨」が 33.8%、「経済支援サービスの情報提供」が 10.3%となっている。



⑤相談内容からの課題

「その他」が 58.5%と最も高く、次いで「相談(連携)機関がない・わからない」が 34.1%、「対応の仕方がわからない」が 7.3%となっている。

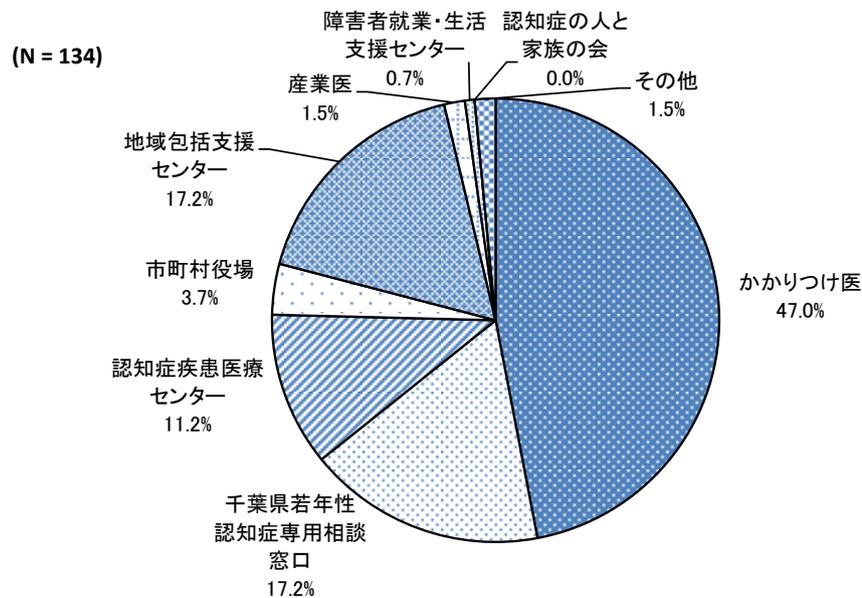


その他

- ・金銭面の不安に対する対応。年金等の相談が複ざつで分からない
- ・進行性の疾患なので本人の精神面のフォローが難しい
- ・家族の負担をいかに軽減するか
- ・対応した介護保険サービスが少ない
- ・家族の精神的な受け入れが困難
- ・他利用者の理解
- ・入居後の支援内容について
- ・家族の受容過程への接し方
- ・家族の受け入れまでの葛藤。生活への不安への寄り添い、提案の仕方。
- ・現状は大丈夫だったが内容によって課題があるかも
- ・医療・介護・生活支援などのサポート体制づくりと連携。継続して担当（マネジメント）する人の不在。
- ・サービス提供できる事業所が少ない
- ・配偶者の心のケア
- ・本人と妻の離婚についても問題が出ている
- ・支援機関が少ない
- ・グループホームのため入所に関する相談が主
- ・相談できる機関が少ない
- ・障害福祉サービスと介護サービスとの使いわけ。計画相談とケアマネジャー。
- ・病状の進行が早く、対応を急がなくてはいけない
- ・夫が就労中、子供が高校生で家族にも支援が必要な状態であった
- ・若年性なので自分自身も自覚しておらず連絡不通になる
- ・若年性特有の機関への調整の経験不足及び、地域の受け皿の不足
- ・家族が若くしっかりしていたため特に問題なし

問6 本人が最初の相談先として最も適当と思われるところ、あるいは充実させた方がいいと思われるところはどこですか。(1つに○を付けてください。)

「かかりつけ医」が47.0%と最も高く、次いで「千葉県若年性認知症専用相談窓口」及び「地域包括支援センター」が17.2%となっている。



その他

- ・かかりつけ医から認知症疾患医療センターの紹介があるのがベストだと思う
- ・精神科外来（認知症専門外来）